

ハスの勢力を弱めるための刈り取り実験

美しい手賀沼を愛する市民の連合会

八鍬 雅子

2013年3月1日に開催した「手賀沼生き物調査報告会」では、ハス群落の拡大により、沼岸のヒメガマ・マコモなど既存の抽水植物群落が縮小してきたこと、繁茂域が、群落中心南北横断線における最深部水深の水深1.56mに達したことが確認され、今後北岸にまで繁茂域が到達する恐れも生じてきたこと、沼北岸には2010年以降毎年ハス定着地点が複数確認されていることが報告された。この報告会での大方の意見はハス群落の拡大は阻止するべきだということであった。

群落の拡大を阻止する方法を探るため、刈り取りによる実験を行った。結果は明確な効果があったとは判定できなかったが、実施時期、刈り取り方法、実験箇所の選定等について多くの知見が得られた。

共同研究：千葉県立博物館環境科学研究科学芸研究員 林 紀男 さん

協力： 東京大学院新領域創成科学研究科自然環境学 教授 山室 真澄 さん

日時：6月27日 午前9時30分～11時30分

参加：20名（美手連運営委員、大津川をきれいにする会他美手連加盟団体会員）

●船外機付きボート3艘に分乗（ボートセンター小池、沼南園、NPO法人アルバトロスヨットクラブ）

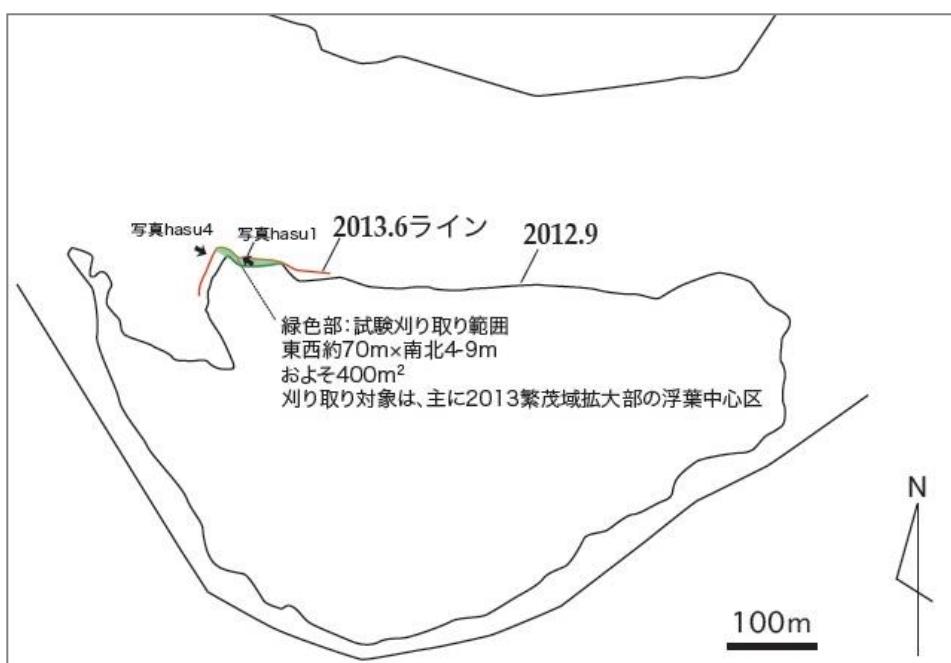
●ハスの刈り取り要領

- ・刈り取りは、ハス群落と水域の境界で実施し、群落の最先端の浮葉の刈り採りを徹底した。
- ・葉柄を水面下10cm程度で刈り取った。（葉柄から水が浸入し水が地下茎まで達することにより、植物体が窒息し枯死する。）
- ・一度刈った葉柄が水面より上に立ちあがったものは、再度水面下で切り取った。
- ・刈り取ったハスの葉：土嚢66袋に入れ、沼南園岸辺に上げ水切り。柏市に収集と焼却を依頼した。

●刈り取り実績

- ・東西方向約70m・南北方向（最大）9m（最小）4m

面積約400m²（南北方向の繁茂域先端部は凹凸状に浮葉が出ていて、正確な面積は計算しにくい）





下流側から撮影



群落の最先端は浮葉

●刈り取り効果検証

【林紀男さんによる 9 月ハスの境界測定実施報告】

手賀沼のハスについては、試験刈り取りした場所・区域を対照と比較検証するように設定できなかったため、科学的な根拠をもって刈り取りの効果を結論づけることができなかった。刈り取りの有無による繁茂域拡大の抑制効果を、現場調査データから、きちんと明快に証明するためには、対照区を設定した上で比較検証することが必須条件であると結論づけられた。

刈りとり効果を証明できなかったのは、そもそも刈り取り実験を実施した場所選定が不適切であった面が否めない。刈り取り検証した場が、突端部で突き出た場所であった為、刈り取りにより繁茂域の北進度合いが小さくなつたのか、突端部で水深がその他の部分よりも深い場所に進出することになつたために進出幅が抑制されたのか証明できないという結果であった。

参考：「2013 年度の生き物調査報告会での林紀男さんの発表より」ハスは水深が 1 m を超えると成長阻害要因となるとの研究論文が複数ある。

参考文献：林紀男 「2013 年度千葉県生物学会研究発表会要旨」 2013 年 2 月 23 日